

【寄稿論文】

# ペット同伴搭乗サービスの現状と経済価値

－スターフライヤー台湾チャーター便の調査から－

佐賀大学経済学部准教授 内山真由美

佐賀大学経済学部教授／アジア成長研究所客員教授 亀山 嘉大

## 要旨

本稿では、株式会社スターフライヤーが実施しているペット同伴搭乗サービスを題材に、ペットを含む動物に関する法の先行研究および海外の航空会社のペット同伴搭乗サービスの現状を整理し、国際線におけるペット同伴搭乗サービスの導入の可能性を検討した。具体的には、2023年1～2月に実施したスターフライヤー台湾チャーター便のインバウンド旅行者に対するアンケート調査をもとに、仮想市場評価法（CVM：Contingent Valuation Method）に基づくペット同伴搭乗サービスの評価額を計測した。その結果、アンケート調査の回答者は、韓国のフルサービスキャリアの航空会社が実施しているペット同伴搭乗サービスの料金と同等の評価を付けることがわかった。

今後のインバウンド戦略では、量よりも質を追求していく必要がある。そのため、観光事業における新しい付加価値の創出や提供は不可欠なものとなる。ペット同伴搭乗サービスは、その一助になる可能性がある。ただし、ペット同伴搭乗サービスを導入するにあたり、日本と対象国の双方において人獣共通感染症対策が十分にとられていることが前提となる。そのためには、福岡県が推進する「ワンヘルス」のさらなる進展が求められる。

## 1. はじめに－コロナ禍の北九州空港におけるスターフライヤーの動向－

コロナ禍で国際移動はもとより国内移動にも抑制がかかったことで、航空業界では、2020年4～6月期連結決算でANAホールディングスは1,088億円、日本航空は937億円という巨額の赤字を計上した（朝日新聞、2020年8月4日付）。我が国の全国各地で展開している地域航空会社も同様で運休や減便による赤字に耐えてきた。北九州空港に拠点を置く株式会社スターフライヤー（以下「SFJ」）も同様である。SFJは、「既存の航空会社にはない新しい航空輸送サービスをお客様、社会に提供する目的で設立された航空会社」<sup>注1)</sup>である。「感動のあるエアライン」という企業理念のもと、黒塗りの機体の採用（株式会社スターフライヤー、2017、p. 136）や従業員による靴磨

注1) 株式会社スターフライヤー「企業理念・行動指針」(<https://www.starflyer.jp/starflyer/corporate/>) Accessed Apr 10, 2023。

きサービスの実施（株式会社スターフライヤー、2017、p. 144, pp. 214～221）など他の航空会社にはないサービスを提供してきた。そのSFJでも、2020年4～6月期の単独決算で最終損益が37億円の赤字となり、「四半期ベースとして上場以来、過去最大の赤字であった（日本経済新聞、2020年8月4日付）」。コロナ禍以前、SFJは国際線定期便を北九州－台北（桃園）および名古屋（中部）－台北（桃園）の2路線で就航していたが、2020年3月11日から運休している<sup>注2)</sup>。国内線では、特に新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言が初めて発令された期間（2020年4月7日～5月25日）に減便が拡大した。すなわち、コロナ前に1日11往復していた主要路線である北九州－羽田線は1日1往復に、1日8往復していた福岡－羽田線は1日1往復に、1日6往復していた福岡－名古屋線は1日2往復しか運航がなかった（日経速報ニュースアーカイブ、2020年4月23日17:00付）。

このように新型コロナウイルス感染症の影響によって航空需要が減少したが、SFJはコロナ禍でも、新しい付加価値の創出や提供のために様々な利用促進策を講じてきた。2020年度は、フライト中の機内においてプラネタリウムで星空を上映する特別便の運航（日本経済新聞、2020年8月29日付）、空港探検ツアーの開催（日本経済新聞、2020年12月1日付）などがある。2021年度は、フルフライトシミュレーター体験プラン「FFs dream Flight」の販売、子ども向けの「家族でパイロット体験」の販売、アニメ「TIGER & BUNNY 2」とのコラボレーション（北九州空港での等身大パネルの設置、オンラインショップでのグッズ販売）などがある<sup>注3)</sup>。2022年度は、フルフライトシミュレーター体験プラン「FFs dream Flight」の販売、ペット同伴チャーターフライト「GO WITH わんこツアー」の運行、羽田－福岡線で利用可能なワーケーションプレミアムクーポンの発売、SFJ航空券と星野リゾートの温泉旅館「界」の宿泊がセットになった旅行商品「大分 星めぐりドライブの旅」の販売、特別デザイン機「TIGER & BUNNY 2 スペシャルジェット」（タイバニジェット）の就航およびお披露目会参加チケット付きのパッケージツアーの販売、小倉・関門地区の観光スポットをめぐる「STARFLYER Presents TIGER & BUNNY 2 デジタルスタンプラリー」の開催、星野リゾートの「界 湯布院」、「界 別府」、「界 阿蘇」の3施設を宿泊対象とする「飛行機内も宿泊も愛犬と一緒に過ごす温泉旅プラン」の販売、「JR九州フリーきっぷ」の機内販売、「Fly with Smile Kids!」の開始、オリジナルグッズ付き宿泊プラン「STARFLYER Presents TIGER & BUNNY 2 パッケージツアー」の販売、株式会社ジャパネットホールディングスとの資本業務提携による機内誌の全面リニューアル・機内での通信販売の開始、北九州空港でのエアバギーレンタルサービスの開始（期間限定）、北九州－羽田線の早朝深夜便の期間限定セール（東京満喫セール）の実施などがある<sup>注4)</sup>。

コロナ禍におけるこうした取り組みの1つにSFJが2022年1月27日に発売を開始し、2022年3月27日にサービスを開始したペット同伴搭乗サービス「FLY WITH PET!」がある。コロナ禍で航空需要が落ち込んだこと、さらに日本は今後も人口の減少が続くと推計されていることか

注2) 株式会社スターフライヤー「国際線定期便の運休について（2023/3/25～2023/10/28）」（[https://www.starflyer.jp/news/2022/news\\_20230208.pdf](https://www.starflyer.jp/news/2022/news_20230208.pdf)） Accessed Apr 10, 2023.

注3) 株式会社スターフライヤー「2021年度：お知らせ」（<https://www.starflyer.jp/news/2021/>） Accessed Apr 10, 2023.

注4) 株式会社スターフライヤー「2022年度：お知らせ」（<https://www.starflyer.jp/news/2022/>） Accessed Apr 10, 2023.

ら、今まで航空機を移動手段として選択してこなかった人々を航空機の利用に誘引するような取り組みが求められる。これらのことを背景に、本稿では、日本の航空会社で唯一 SFJ が定期便で実施しているペット同伴搭乗サービスを取り上げて、その現状を整理しながら、その経済価値を計測したい。なお、経済価値である支払意思額（WTP：Willingness to Pay）の計測にあたっては、仮想市場評価法（CVM：Contingent Valuation Method）を採用し、2023年1～2月に SFJ 台湾チャーター便のインバウンド旅客を対象に実施したアンケート調査に基づいて行う。

## 2. 先行研究を踏まえたペット同伴搭乗サービスの現状

最初に、ペットを含む動物がどのような観点から論じられてきたのかを確認する。日本の憲法も民法も、動物に関する規定を持たない。刑罰的には、愛護動物殺傷罪、愛護動物虐待罪、愛護動物遺棄罪を規定する「動物の愛護及び管理に関する法律」（以下、動物愛護管理法とする）44条をめぐり、その保護法益が議論されてきた（原田，1984，pp. 528～529；青木，2011，p. 157；三上，2018，pp. 73～100；清水，2020，pp. 214～217）。民法的には、ペットが他人や他人のペットに咬みついた際に問題になる飼い主の賠償責任などが議論され、弁護士がペットに関する裁判例をまとめた書籍もある（渋谷，杉村，2018；渋谷，2020）。

加えて、日本の動物愛護管理法と各国の動物保護法が広く紹介されてきた。東京弁護士会公害・環境特別委員会編（2020）は、日本の動物愛護管理法を解説したものである。ペット六法編集委員会編（2006a）は日本の動物関連法を、ペット六法編集委員会編（2006b）は各国の動物関連法を「ペット六法」としてまとめたものである。動物保護法をはじめ各国において動物がどのように扱われているか、イギリス（新美，2001）、アメリカ（長谷川，2001）、ドイツ（椿，2001；浦川，2003；浅川，2016）、フランス（吉井，2001）の紹介がある。日本と西欧の動物関連法を比較する青木（2002；2016a；2016b）がある。特に、動物実験が動物保護よりも優先される実態があったが、研究の自由が基本法（ドイツの憲法）で保障される以上、それを動物保護法で規制することは困難であったため、基本法を改正して動物保護の文言を条文に挿入したドイツが目ざされている。さらに、ドイツの民法が、「動物は物ではない」として（90a条）、それを裏づける条文を持つことも（251条2項，903条）、ドイツが紹介される理由である。そのほか、浅川，有馬（2018）によるアテネオリンピックを契機に急速に取り組みが進んだギリシャの動物保護、中村（2022）による2022年に改正された韓国の動物保護法、樋口（2019a；2019b；2021）によるスウェーデンの動物保護法、動物保護法令、ペット飼養規制の紹介がある。各国のペットを取り巻く状況や動物保護法を知ることは、「人と動物の共生する社会の実現を図ること」（動物愛護管理法1条）を目的とする日本に示唆を与える。

次に、航空運送に関する先行研究を見ていく。国際航空運送については、日本も2000年に締結した「国際航空運送についてのある規則の統一に関する条約」（いわゆる「モントリオール条約」）により、旅客の死亡・傷害、旅客の延着、貨物や手荷物の遅延・破損・紛失といった場合の航空運送人の責任および損害賠償の範囲等が定められている。一方、国内航空運送は、2019年4月1日に施行された改正商法で初めて法制化された（569～594条）。それ以前は運送人が定める約款

にのみ依拠していたため、「各約款の規定は、最終的に裁判所の判断によって無効となる可能性もないわけではなく、運送実務が約款のみに依拠することは、法的に不安定な要素を含むことも否定できない」（菅原，2014，p. 73）と指摘されていた。そのため改正商法によって法的安定性を得ることができたと評価できる。だが、モントリオール条約が旅客の死傷について一定額まで無過失責任を負うとしているのに対し、改正商法が過失推定責任を採用していることが問題視されるなど（小林，2020），改正商法においても未解決の問題はある。動物・ペットの航空運送については，山崎（1992）が動物・ペットの航空運送中の死亡・傷害に対する運送人の責任を論じている。このように，主に航空運送人の責任に焦点が当てられてきたが，山崎（1992）の他にペットの航空運送を議論するものは少ない注5）。

本稿は，人と動物の共生という視点とペットの航空運送という視点を組み合わせて，ペット同伴搭乗サービスを議論する。先に述べたように，日本国内でペット同伴搭乗サービスを導入しているのはSFJだけである。海外の航空会社はどうであろうか。表1は，国内線または国際線の少なくともどちらかで，ペット（犬・猫）同伴搭乗サービス（ペットの客室持込）を実施している海外の航空会社注6）を一覧にしたものである。

表1 ペット同伴搭乗サービスを実施している海外の航空会社

国・地域	航空会社			
韓国	大韓航空	アジアナ航空	エアソウル	エアプサン
	ジンエアー	チェジュ航空	ティーウェイ航空	フライカンウォン
	エアプレミア			
中国	海南航空			
モンゴル	MIAT モンゴル航空			
ベトナム	ベトナム航空	バンブーエアウェイズ		
南・中央アジア	エアインディア	ウズベキスタン航空		
中東	トルコ航空	エルアルイスラエル航空	エティハド航空	
ロシア・北欧	オーロラ航空	フィンランド航空		
欧州	KLM オランダ航空	ルフトハンザドイツ航空	エールフランス	エアタヒチヌイ
	イベリア航空	スイスインターナショナル エアラインズ	オーストリア航空	LOT ポーランド航空
アフリカ	エジプト航空	エチオピア航空		
北米	アメリカン航空	デルタ航空	ユナイテッド航空	ハワイアン航空
	エアカナダ	ウェストジェット	アエロメヒコ	
南米	ラタム航空			

（出所）各航空会社ホームページに基づき筆者作成

注5) 内山（2023）では，航空関係法令におけるペットの位置づけを確認し，旅客に同伴するペットの受け入れ体制について国内航空会社各社の国内旅客運送約款を紹介している。

注6) 航空会社名は，Narita Airport「航空会社案内」を参照した（[https://www.narita-airport.jp/jp/t\\_info](https://www.narita-airport.jp/jp/t_info)）Accessed Apr 10, 2023。表1には，それら航空会社のうち，各社ホームページ上でペット（犬・猫）の客室同伴が可能なことを把握できたものに限定して掲載した。

表1にあるように、欧州や北米では、ペット同伴搭乗サービスが普及している。米国の三大航空会社の全てが、同サービスを提供している。ペット同伴搭乗サービスは、欧米の航空会社に加えて、韓国の航空会社が積極的に導入していることがわかる。韓国では、ペット（犬）を同伴して公共交通機関を利用する際、ケージに入れるルールが設けられているが、「乗客は寛容で犬好きが声をかけてくることが多い」（倉石，2018，p. 24）。タクシーは「顔を出したまま乗車させても特に問われることはない」（同）。このような犬への寛容さがペット同伴搭乗サービスを許容する背景として考えられる。

日本では、SFJが日本の航空会社で初めて国内線定期便でのペット同伴搭乗サービス「FLY WITH PET!」を開始した。先述のとおり新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する前、SFJは、国際線定期便について、北九州—台北（桃園）および名古屋（中部）—台北（桃園）の2路線を運航していた（現在運休中）。本稿では、将来的に国際線でペット同伴搭乗サービス「FLY WITH PET!」の導入を検討する場合の課題とは何か、SFJ台湾チャーター便アンケート調査の結果から検討したい。

### 3. SFJ 台湾チャーター便の調査結果

アンケート調査は、2023年1～2月に実施した。調査対象者は、SFJが台湾の旧正月時期に運航したチャーター便（6往復）のうち、台北（桃園）空港発1月20日便、1月25日便、1月30日便、2月4日便、2月9日便の利用者である（各150名）。調査票は、中国語（繁体字）で用意し、チャーター便利用者が帰路につく北九州空港において旅行会社を通じて配布した。調査票に掲載したQRコードを読み取り、Googleフォームで回答を求めた。最終的に合計92の回答を得た。調査項目は、回答者の属性（年齢、性別、居住地、訪日回数）、印象に残った訪問場所、ペットの飼育の有無、ペットを連れた移動経験、ペット同伴搭乗の需要、ワンヘルス（One Health）、利用する空港・航空会社にあってほしいサービス・キャンペーンである。なお、チャーター便利用者は4泊5日で旅行会社（全4社）ごとに旅程が異なる（同一旅行会社でも台北（桃園）空港出発日より旅程が異なる場合もある）。以下、各回答について概観する。

表2 回答者の属性（単位：人（%））

年齢分布		性別		居住分布		訪日回数	
13～29歳	25 (27.2)	男性	35 (38.0)	6直轄市	77 (83.7)	今回が初めて	8 (8.7)
30～49歳	40 (43.5)	女性	57 (62.0)	13縣	7 (7.6)	2回目	15 (16.3)
50～64歳	22 (23.9)	その他	0 (0.0)	3省轄市	8 (8.7)	3～5回	23 (25.0)
65～70歳	5 (5.4)	回答したくない	0 (0.0)			6～9回	25 (27.2)
						10回以上	21 (22.8)
回答者数計	92 (100.0)	回答者数計	92 (100.0)	回答者数計	92 (100.0)	回答者数計	92 (100.0)

（注）6直轄市（台北市／桃園市／新北市／台中市／台南市／高雄市），3省轄市（基隆市／新竹市／嘉義市），13縣（新竹県／苗栗県／宜蘭県／彰化県／雲林県／南投県／花蓮県／嘉義県／台東県／屏東県／澎湖県／金門県／連江県）

（出所）アンケートデータに基づき筆者作成

アンケート調査の回答数は92、回答率は12.3%であった。年齢分布は、中央値42.5歳、平均値39.9歳、最大値70歳、最小値13歳であった。表2は、回答者の属性を表したものである。

公益財団法人日本台湾交流協会によれば、台湾の人口の約7割が6直轄市、約3割が13県に居住している<sup>注7)</sup>。一方、今回の調査では、表2にあるように6直轄市在住者が回答の8割を占めた。訪日回数は、6~9回および10回以上を合計すると5割に上り、訪日経験が豊富な回答者が半数を占めた。全回答92を旅行会社別に分けると、五福旅遊37、信安旅遊25、百威旅遊17、鳳凰旅遊13であった。先述したように、旅行会社ごとに旅程が異なり、また、同一旅行会社であっても台北(桃園)空港出発日によって旅程が異なるため訪問場所にも違いがある。

アンケート調査では、今回訪問した場所で印象に残っているところをA) ショッピング、B) 寺社・仏閣・城、C) 街歩き、D) 温泉、E) 食体験、F) 自然景観、G) 体験の中から複数回答で選択してもらった。その上で、任意の設問として、各カテゴリーの中から最も印象に残った訪問場所を1つ答えてもらうこととした。旅程を参照して設定した各カテゴリー内の選択肢は、次のものである。A) ショッピング: THE OUTLET KITAKYUSHU / イオンモール / 鳥栖プレミアムアウトレット / ららぽーと福岡 / 福岡市内、B) 寺社・仏閣・城: 太宰府天満宮 / 祐徳稲荷神社 / 赤間神宮 / 元乃隅神社 / 上色見熊野座神社 / 宇佐神宮 / 小倉城 / 熊本城、C) 街歩き: 日田の豆田町 / 門司港レトロ / 関門海峡、D) 温泉: 嬉野 / 湯布院 / 別府 / 黒川温泉 / 雲仙、E) 食体験: 呼子の朝市 / 旦過市場 / いちご狩り / アサヒビール工場、F) 自然景観: 九十九島 / 角島 / 金鱗湖 / 島原 / 震動の滝、G) 体験: 柳川の川下り / 九重夢大吊橋 / 南阿蘇鉄道 / 雲仙ロープウェイ / ハウステンボス / 九重森林公園スキー場 / 高崎山自然公園 / 武雄図書館。以下の図1~4では、各旅行会社で旅程が同一の回答に限定して取り上げた。

図1は、回答数が最も多かった五福旅遊の旅行者(回答数37)について、旅程が同一な27人分の回答を集計したものである。五福旅遊の回答の「寺社・仏閣・城」では太宰府天満宮および元乃隅神社、「街歩き」では門司港レトロ、「ショッピング」では福岡市内、「温泉」では湯布院、「自然景観」では角島、「体験」では柳川の川下り、「食体験」ではいちご狩りが、それぞれ最も回答が多かった。

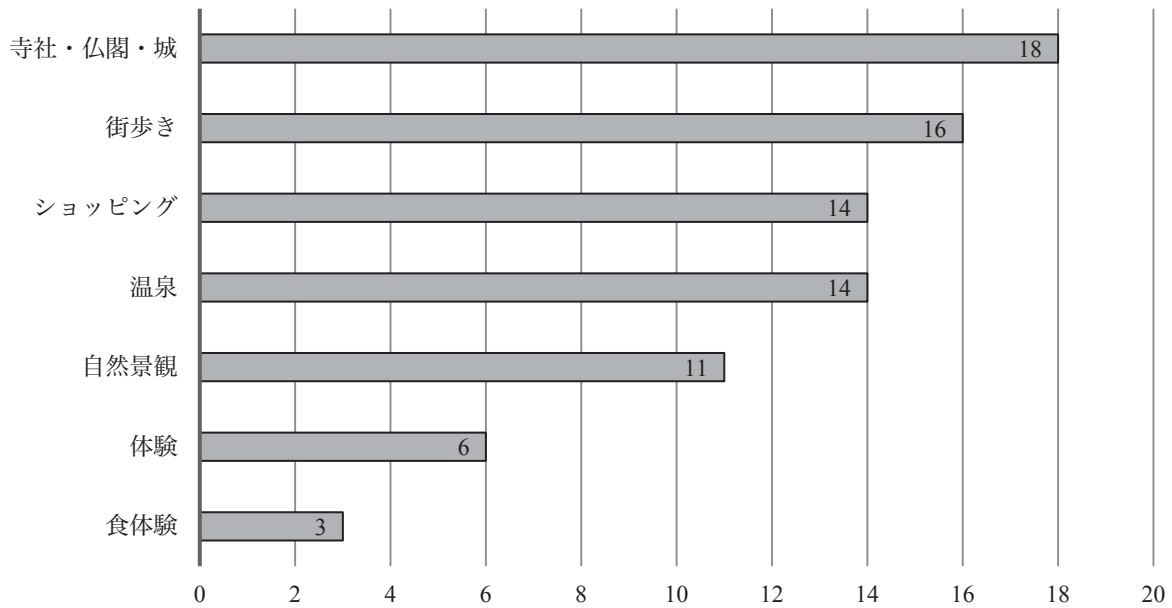
図2は、回答数が2番目に多かった信安旅遊の旅行者(回答数25)について、旅程が同一な17人分の回答を集計したものである。信安旅遊の回答の「寺社・仏閣・城」では太宰府天満宮、「ショッピング」では福岡市内、「温泉」では湯布院、「自然景観」では金鱗湖、「体験」では柳川の川下り、「街歩き」では門司港レトロ、「食体験」ではいちご狩りが、それぞれ最も回答が多かった。

図3は、百威旅遊の旅行者(回答数17)の回答を集計したものである。百威旅遊の回答の「温泉」では湯布院、「寺社・仏閣・城」では熊本城、「ショッピング」ではTHE OUTLET KITAKYUSHU および福岡市内、「食体験」ではいちご狩り、「街歩き」では門司港レトロ、「自然景観」では金鱗湖が、それぞれ最も回答が多かった。なお、「体験」は回答がなかった。

図4は、鳳凰旅遊の旅行者(回答数13)について、旅程が同一な12人分の回答を集計したも

注7) 公益財団法人日本台湾交流協会ホームページ「台湾に関する基礎知識」(<https://www.koryu.or.jp/publications/knowledge/>) Accessed Apr 22, 2023。

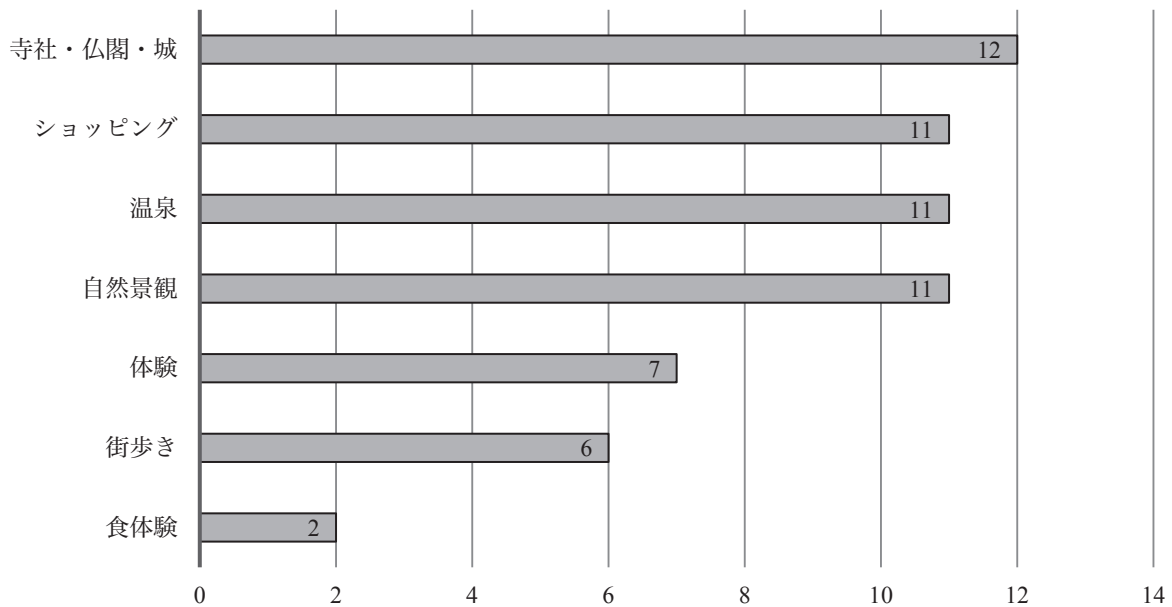
図1 印象に残った訪問場所（五福旅遊の旅行者、複数回答 N=27）



(注) 五福旅遊の旅行者の回答は、同じ旅程の台北（桃園）空港発1月30日便23人、2月4日便4人の合計27人に限る（なお、同一旅程の2月9日便の回答は0人であり、旅程が異なる1月20日便の回答は10人、1月25日便の回答は0人である）。

(出所) アンケートデータに基づき筆者作成

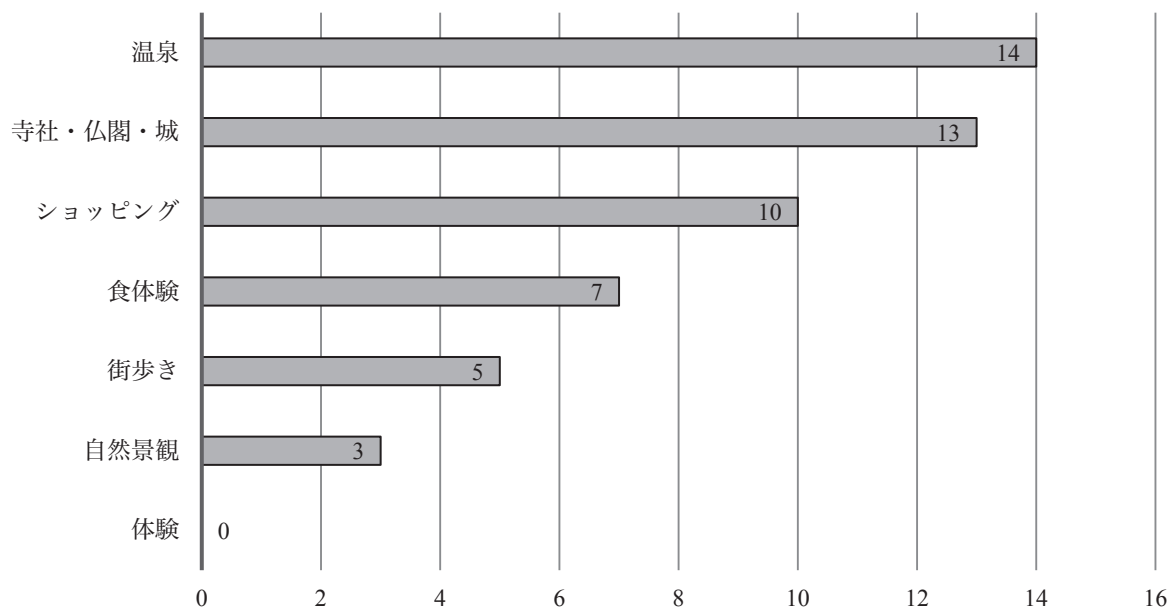
図2 印象に残った訪問場所（信安旅遊の旅行者、複数回答 N=17）



(注) 信安旅遊の旅行者の回答は、同じ旅程の台北（桃園）空港発1月30日便14人、2月4日便2人、2月9日便1人の合計17人に限る（なお、旅程が異なる1月20日便の回答は2人、1月25日便の回答は6人である）。

(出所) アンケートデータに基づき筆者作成

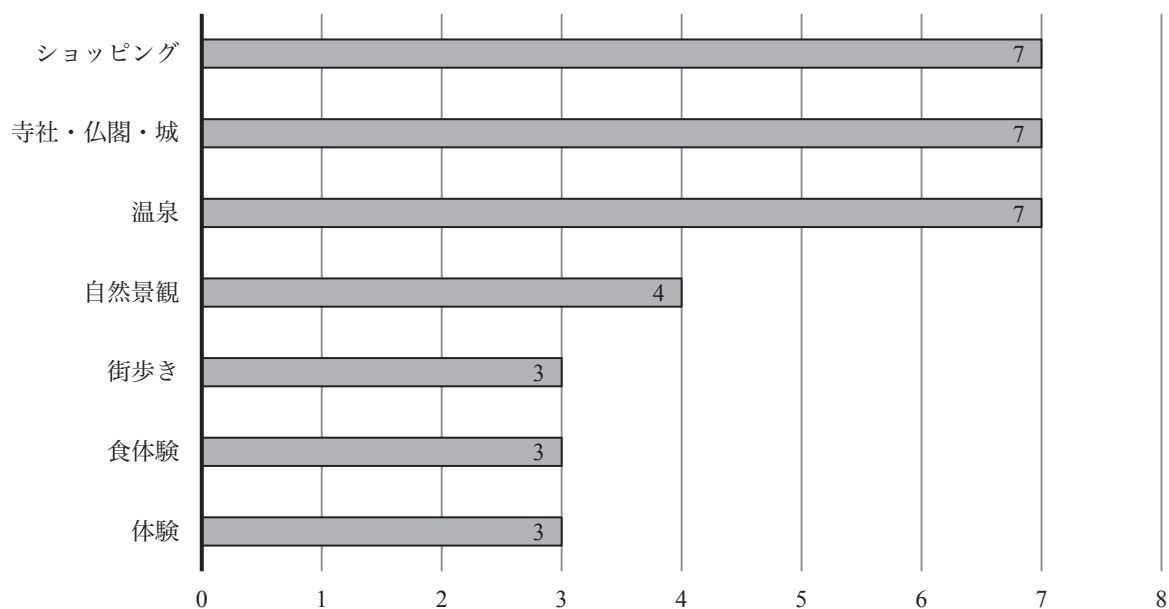
図3 印象に残った訪問場所（百威旅遊の旅行者，複数回答 N=17）



(注) 百威旅遊の旅程は全て同一であり，台北（桃園）空港発 1月25日便4人，1月30日便2人，2月4日便10人，2月9日便1人の合計17人である（1月20日便の回答は0人である）。

(出所) アンケートデータに基づき筆者作成

図4 印象に残った訪問場所（鳳凰旅遊の旅行者，複数回答 N=12）



(注) 鳳凰旅遊の旅行者の回答は，旅程が異なる台北（桃園）空港発1月20日便1人を除く，同じ旅程の台北（桃園）空港発1月25日便2人，1月30日便2人，2月4日便7人，2月9日便1人の合計12人に限る。

(出所) アンケートデータに基づき筆者作成



のである。鳳凰旅遊の回答の「ショッピング」では福岡市内、「寺社・仏閣・城」では熊本城、「温泉」では湯布院、「自然景観」では金鱗湖、「街歩き」では門司港レトロ、「食体験」ではいちご狩り、「体験」では柳川の川下りが、それぞれ最も回答が多かった。

次に、全回答者92人のうち、ペットを飼育している回答者は25人(27.2%)、ペットを飼育していない回答者は67人(72.8%)であった。ペットを飼育している回答者25人の内訳は、小型犬19人、中型犬4人、大型犬2人であった。小型犬の飼い主が多数を占めたことから、表3は、ペット関連の質問に対する小型犬の飼い主の回答をまとめたものである。

表3にあるように、1ヵ月平均でペット(犬・猫に限る)1頭にかけている費用は、1,251~2,500 TWDの回答が4割と最多であった。台湾国内線で受託手荷物としてペットを同伴した移動経験がある回答者は3人であった。そのうち、2人は1ヵ月平均でペット(犬・猫に限る)1頭にかけている費用が1,251~2,500 TWD、1人は7,501~12,500 TWDであった。国際線でのペットを同伴した移動経験は皆無であった。なお、ペットの客室同伴経験の有無もあわせて尋ねたが、19人全員にその経験はなかった。台湾の航空会社(中華航空、エバー航空、スターラックス航空、タイガーエア)はペットの客室同伴を認めていないため、回答はそれを反映しているものと思われる。また、国際線については、やはり手続面でのハードルの高さに関係していよう。ただし、表3にあるように、受託手荷物としてペット同伴経験があるという回答者が19人中3人存在したことから、ペットを連れた移動の需要は一定程度あると思われる。

福岡県は、人と動物に共通の感染症(人獣共通感染症)について、「ワンヘルス(One Health)」に基づく取り組みを推進している。福岡県によれば、『ワンヘルス』とは、人と動物の健康及び環境の健全性はひとつのもの、すなわち『健康は一つ』であるとの概念又は理念をいう(福岡県ワンヘルス推進基本条例2条)<sup>注8)</sup>。アンケート調査では、ワンヘルスに関する訪日観光客の関心の度合いを聴取するため、ワンヘルスに関する6項目(人獣共通感染症対策、薬剤耐性菌対策、環境保護、人と動物の共生社会づくり、健康づくり、環境と人と動物のより良い関係づくり)と「特

表3 小型犬の飼い主のペット事情(単位:人(%))

ペット1頭にかけている費用 (1ヵ月平均)		ペットを同伴した移動経験 (台湾国内線)		ペットを同伴した移動経験 (国際線)	
751~1,250 TWD	4 (21.1)	なし	4 (21.1)	なし	4 (21.1)
1,251~2,500 TWD	8 (42.1)	あり(受託手荷物) なし	2 (10.5) 6 (31.6)	なし	8 (42.1)
2,501~5,000 TWD	5 (26.3)	なし	5 (26.3)	なし	5 (26.3)
5,001~7,500 TWD	1 (5.3)	なし	1 (5.3)	なし	1 (5.3)
7,501~12,500 TWD	1 (5.3)	あり(受託手荷物)	1 (5.3)	なし	1 (5.3)
回答者数計	19 (100.0)	回答者数計	19 (100.0)	回答者数計	19 (100.0)

(出所) アンケートデータに基づき筆者作成

注8) 福岡県議会「福岡県ワンヘルス推進基本条例」(<https://www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/pdf/onehealth.pdf>)  
Accessed Apr 26, 2023.

表4 ワンヘルスの関心 (単位:人 (%))

項目	ペットを飼育している	ペットを飼育していない	合計
狂犬病や高病原性鳥インフルエンザなど人獣共通感染症対策	5 (20.0)	20 (29.9)	25 (27.2)
特に関心はない	3 (12.0)	12 (17.9)	15 (16.3)
動物愛護教育の推進, 障害のある人の日常生活をサポートする犬の育成支援とアニマルセラピーの活用による人と動物の共生社会づくり	4 (16.0)	9 (13.4)	13 (14.1)
環境に配慮した農林水産業の推進と食品ロスの削減による環境と人と動物のより良い関係づくり	3 (12.0)	10 (14.9)	13 (14.1)
自然や愛玩動物とのふれあいを通じた健康づくり	6 (24.0)	6 (9.0)	12 (13.0)
生物多様性の保全, 地球温暖化対策と大気・水・土壌環境保全対策	4 (16.0)	8 (11.9)	12 (13.0)
結核など薬剤耐性菌対策	0 (0.0)	2 (2.2)	2 (2.2)
回答者数計	25 (100.0)	67 (100.0)	92 (100.0)

(出所) アンケートデータに基づき筆者作成

「関心はない」の1項目を選択肢として、それらから最も関心があるものを1つ回答してもらった。6項目の詳細は、「福岡県ワンヘルス推進行動計画」の「第3章 施策の展開」を参考に作成した<sup>注9)</sup>。表4は、その回答をペットの飼育の有無で分けたものである。

ワンヘルスの1つの項目である「自然や愛玩動物とのふれあいを通じた健康づくり」は、ペットを飼育している回答者の割合最も高く(24.0%)、反対に、ペットを飼育していない回答者の割合は低かった(9.0%)。「狂犬病や高病原性鳥インフルエンザなど人獣共通感染症対策」は、ペットを飼育している回答者の割合(20.0%)よりも、ペットを飼育していない回答者の割合(29.9%)の方が高かった。台湾では、狂犬病(井上, 費, 2014)や高病原性鳥インフルエンザ(伊藤, 2013, pp. 5~6)が発生しており、それらがこのような回答の背景にあるものと推察される。

最後に、利用する空港や航空会社に希望するサービスやキャンペーンを自由記入で聴取したところ、少数回答になるが、チャーター便に関する希望(早朝便や午後便の新設)、機内食に関する希望、機内エンターテイメントに関する希望(中国語字幕付き映画)、出入国および搭乗手続に関する希望(スタッフの増員)、空港内設備に関する希望(トイレ, ウォーターサーバー, レストラン, 待合室におけるリクライニングチェアの設置)があった。

## 4. CVMに基づくペット同伴搭乗サービスの評価額

ここまでの議論を背景に、仮にSFJはじめ日本の航空会社が台湾からのインバウンド旅行者にペット同伴搭乗サービスを提供した場合、彼らは、そのサービスにどのような評価(WTP)を付けるであろうか。本章では、一連のアンケート調査の回答をもとに、CVMによって、ペット同伴

注9) 福岡県「福岡県ワンヘルス推進行動計画」(<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/160712.pdf>) Accessed Jan 16, 2023。

搭乗サービスのオプション価値を計測し、そのサービスの有効性やWTPを探ることにしたい。

本来、CVMの適用範囲は、利用価値・非利用価値に関係なく、景観、環境、生態系（生物多様性）、公共事業、レクリエーションに至るまで幅広である<sup>注10</sup>。新田、鈴木、矢部（2000）、垣内、吉田（2002）は、観光資源を含むレクリエーション機能の遺贈価値やオプション価値（支払意思額）をCVMで計測している。さらに、李（2010）、牛房（2012）、亀山（2019）は、仮想的なシナリオのもとで、地域資源に根差した観光資源や観光商品のオプション価値をCVMで計測している。これらの先行研究は、現在の市場で評価されていないものでも、仮想的なシナリオのもとで、利用価値、未利用価値、非利用価値を計測できることを示唆している。

本稿では、先行研究と同様の手続きにしたがい、SFJ台湾チャーター便のインバウンド旅客を調査対象として、仮想的なシナリオのもとで、ペット同伴搭乗サービスのオプション価値の計測を試みる。今回の一連の調査では、バイアス除去を考慮して2段階2肢選択方式のCVMを設計し、5回の調査とも同じ内容でWTPを尋ねた。調査票はA、B、Cの3種類を中国語（繁体字）で用意し、A、B、Cが均しく回答者に行き渡るように、上から順に（A、B、Cの順に）配布してもらった。

図5は、今回のCVMの調査票Aのフローチャートを示している。回答者には、調査票Aの第1段階で5,000 TWD（T1）を提示し、この金額への支払い意思をYes・Noで回答してもらった。その上で、第2段階として、第1段階の金額にYesの回答者には7,500 TWD（TU）を提示し、この金額への支払い意思を再びYes・Noで回答してもらい、第1段階の金額にNoの回答者には2,500 TWD（TL）を提示し、この金額への支払い意思をYes・Noを回答してもらった。

同様に、調査票Bの第1段階で7,500 TWD（T1）を提示し、第2段階では、第1段階の金額にYesの回答者に1万 TWD（TU）、第1段階の金額にNoの回答者に3,750 TWD（TL）を提示した。調査票Cの第1段階で1万 TWD（T1）、第2段階では、第1段階の金額にYesの回答者に1万2,500 TWD（TU）、第1段階の金額にNoの回答者に5,000 TWD（TL）を提示した。回答

図5 CVMのフローチャート

ペットを連れた旅行を想定してください。 ペット（犬・猫に限る）1匹を機内に持ち込んで台湾⇄日本を飛行機で旅行できるとしたら、 その料金が5,000 TWDの場合、この金額を支払いますか？ （人の航空券代金は含みません）			
Yes		No	
↓		↓	
7,500TWDでも支払いますか？		2,500TWDなら支払いますか？	
Yes	No	Yes	No

（出所）筆者作成

注10) 栗山（1998）は、釧路湿原の景観、環境、生態系（生物多様性）、レクリエーション機能のオプション価値（支払意思額）を計測している。寺田（2007）や林（2016）は、美術館や博物館の便益（利用価値+未利用価値+非利用価値）を計測している。

者は、Yes回答で得られる効用がNo回答で得られる効用よりも高いときに、支払いを受諾したことになる。なお、各調査票の金額の設定にあたっては、表5にあるように、北九州—台北（桃園）という東アジア間の路線が検討対象であるため、同じ東アジア間の路線でペット同伴搭乗サービスを実施しており、各航空会社のホームページで料金が確認できた韓国とベトナムの航空会社<sup>注11)</sup>のペット同伴搭乗サービスの料金を参考に設定した。韓国の航空会社の中でも、大韓航空

表5 韓国とベトナムの航空会社のペット同伴搭乗サービスの料金

航空会社	国内線	国際線（日本発着）
大韓航空（KE）	30,000 ウォン （約 3,000 円）	150,000 ウォン （約 15,000 円）
アジアナ航空（OZ）	30,000 ウォン （約 3,000 円）	140,000 ウォン （約 14,000 円）
エアプレミア（YP）	—	Northeast Asia：130,000 ウォン （約 13,000 円）
エアソウル（RS）	20,000 ウォン （約 2,000 円）	70,000 ウォン （7,000 円）
エアプサン（BX）	20,000 ウォン （約 2,000 円）	70,000 ウォン （7,000 円）
チェジュ航空（7C）	20,000 ウォン （約 2,000 円）	70,000 ウォン （約 7,000 円）
ティーウェイ航空（TW）	20,000 ウォン （約 2,000 円）	—
フライカンウォン（4V）	15,000 ウォン （約 1,500 円）	—
ベトナム航空（VN）	3,000,000 VND （約 17,000 円）	250 USD （約 34,000 円）
バンブーエアウェイズ（QH）	3,000,000 VND （約 17,000 円）	North East of Asia：250 USD （約 34,000 円）

（注）下段の（ ）内は日本円換算したもの。ただし、RS および BX は同社のホームページに 7,000 JPY の標記があるため、円換算していない。YP の国際線は 3 つの路線に分かれている。そのうちの Northeast Asia 発着の数字で充当している。VN の国際線は発着国ではなく発着ゾーンが記載されているため、日本が含まれるゾーン B の数字で充当している。QH の国際線は発着国ではなく発着地区が記載されているため、North East of Asia 発着の数字で充当している。

（出所）各航空会社のホームページに基づき筆者作成

注 11) Korean Air 「ペットをお連れのお客様」 (<https://www.koreanair.com/jp/ja/airport/assistance/travel-with-pet/checklist>), Asiana Airlines 「ペットをお連れのお客様」 (<https://flyasiana.com/C/JP/JA/contents/traveling-with-pets>), Air Premia 「ペットをお連れのお客様」 (<https://www.airpremia.com/jp/ja/support/need/pet>), Air Seoul 「ペットをお連れのお客様」 (<https://flyairseoul.com/CW/ja/animal.do>), Air Busan 「ペット同伴のお客様」 (<https://mjp.airbusan.com/mc/common/service/customer/animal>), T'way Air 「ペットをお連れのお客様」 (<https://www.twayair.com/app/serviceInfo/contents/1070?regionCode=JP&langCode=ja-JP>), Jeju Air. Customers in Need of Assistance. (<https://www.jejuair.net/en/linkService/help/main.do>), Fly Gangwon. Passengers with pets. (<https://flygangwon.com/en/contents/information/showCustomerInformation.do?tab=3>), Vietnam Airlines. BAGGAGE. (<https://www.vietnamairlines.com/jp/en/travel-information/baggage/>), Bamboo airways. Pet travel services. (<https://www.bambooirways.com/vn-en/travel-information/luggage-info/pet-travel-services/>) Accessed May 1, 2023.

とアジアナ航空はフルサービスキャリア（FSC：Full Service Carrier）、エアプレミアはハイブリッドキャリア、エアソウル、エアプサン、チェジュ航空、ティーウェイ航空はローコストキャリア（LCC：Low Cost Carrier）に位置付けられるため、FSCであるKEとOZの料金をベンチマークにした。これらをもとに、北九州（福岡）－仁川の所要時間90分と北九州（福岡）－台北（桃園）の所要時間140分を考慮して加重し、約2万円という金額を得ることができる。この約2万円相当の5,000 TWD（T1）をパターンAの第1段階の金額に設定した<sup>注12</sup>。

この調査票Aの第1段階の5,000 TWD（T1）を基準に、+2,500 TWDの7,500 TWDが調査票B、さらに+2,500 TWDの1万 TWDが調査票Cの第1段階の金額（T1）になるように設定した。表6は、調査票別・段階別の提示額とYes・Noの回答の分布をまとめたものである。調査票のパターンに関係なく、第1段階の金額への支払いを受諾できるとした回答者が8.7～14.1%存在していることがわかる。このことは、今回の調査の回答者にとって、ペット同伴搭乗サービスの有効性があることを示唆している。Yes・Noの回答状況では、上段に回答者数、下段の括弧内に全回答者数92に占める個々の回答の比率を示している。提示額が高くなるとNNの回答者数が増える傾向にある。

CVMによるWTPの計測にあたって、5回分の回答数の合計92を考慮の上、栗山、柘植、庄子（2013）を活用してノンパラメトリック生存分析で算出した。表7は、CVMによるWTPの計測結果を示している。一般的に、WTPの提示額が大きくなると、回答者の効用水準が下がり、Yes回答が得られる生存確率も下がるが、ここでも同様の計測結果が得られている。今回の回答者のWTPの中央値は、3,750～5,000 TWDであった。一方、平均値（下限平均値；上限平均値）は、下限が4,602 TWD；上限が5,672 TWDであった。これらを日本円で表記した場合、WTPの中央値は、約1万6,000～2万1,400円になり、平均値は、下限が約1万9,700円；上限が約2万4,200円になる。この計測結果から、WTPの下限平均値は中央値の範囲内にあるが、上限平均値は中央値の範囲よりも大きくなっていることがわかる。日本円の表記から、今回の回答者のWTP

表6 調査票別・段階別の提示額とYes・Noの回答の分布（N = 92）

	提示額			Yes・Noの回答状況					
	T1	TU	TL	Y	N	YY	YN	NY	NN
調査票 A	5,000	7,500	2,500	12 (13.0)	11 (12.0)	4 (4.3)	8 (8.7)	5 (5.4)	6 (6.5)
調査票 B	7,500	10,000	3,750	8 (8.7)	21 (22.8)	5 (5.4)	3 (3.3)	6 (6.5)	15 (16.3)
調査票 C	10,000	12,500	5,000	13 (14.1)	27 (29.3)	7 (7.6)	6 (6.5)	11 (12.0)	16 (17.4)
合計	—			33 (35.9)	59 (64.1)	16 (17.4)	17 (18.5)	22 (23.9)	37 (40.2)

（出所）アンケートデータに基づき筆者作成

注12) 2万円を調査票の作成完了時である2023年1月15日の為替レート（1円＝4.2710 TWD）でTWDに換算した。為替レートは、Yahoo! ファイナンス（<https://finance.yahoo.co.jp/>）から入手した。

表7 CVMの計測結果 (N = 92)

提示額		推定結果			
Lower	Upper	生存確率	t 値	p 値	
0	2,500	0.784	11.72	0.000	***
2,500	3,750	0.604	10.68	0.000	***
3,750	5,000	0.391	7.69	0.000	***
5,000	10,000	0.220	4.93	0.000	***
10,000	12,500	0.119	3.05	0.003	***
推定 WTP	中央値	3,750~5,000			
	下限平均値	4,602			
	上限平均値	5,672			
対数尤度		-125.96			

(注) \*\*\* は1%水準で有意であることを示している。

(出所) アンケートデータに基づき筆者作成

は、KE や OZ のペット同伴搭乗サービスの料金と同等であることがわかる。先述したように、韓国では、ペット（犬）を同伴した公共交通機関の利用に寛容であるためか、KE や OZ といった FSC から、YP といったハイブリッドキャリア、RS, BX, 7C といった LCC に至るまで国際線においてもペット同伴搭乗サービスが標準装備になっている（LCC のうち TW と 4V は国内線に限って同サービスを実施している）。韓国では、ペット同伴搭乗サービスの利用を希望する際、これほど多くの航空会社が選択肢として存在しており、ある種の競争原理が働くことから、サービスの利用料金もリーズナブルなものとなっているものと考え。表5には、ベトナムの航空会社でペット同伴搭乗サービスを実施している VN と QH の2社を参考に掲載している。FSC である VN と QH の同サービスの利用料金は、同国の LCC であるベトジェットエアが同サービスを実施していない注13) ことから、ある種の競争原理が働いていないことで、韓国よりもベトナムからの所要時間の方がかかるとはいえ、相対的に高い設定となっているものと考え。

## 5. おわりに

本稿では、SFJ が実施しているペット同伴搭乗サービスを題材に、ペットを含む動物に関する法の先行研究および海外の航空会社のペット同伴搭乗サービスの現状を整理し、国際線におけるペット同伴搭乗サービスの導入の可能性を検討した。2023年1~2月に実施した SFJ 台湾チャーター便のインバウンド旅行者に対するアンケート調査をもとに、CVM に基づくペット同伴搭乗サービスの評価額を計測した。その結果、今回の調査の回答者は韓国の FSC の航空会社が実施しているペット同伴搭乗サービスの料金と同等の評価を付けることがわかった。

今後のインバウンド戦略では、コロナ禍以前のように訪日外国人旅行者数を求めることはでき

注13) Vietjet Air. IN-FLIGHT. (<https://www.vietjetair.com/en/pages/terms-and-conditions-vietjet-1608015385508>.) Accessed May 1, 2023.

ない。コロナ禍で各種の観光業から離職が続き、離職者が戻ってこないことで、現在、全国各地の観光施設が人手不足に陥っている。実際、「従業員が確保できないため、予約をやむなく断って、客室の稼働率をあえて抑える『売り止め』の施設」があるという（産経新聞、2023年5月4日）。このことは、量への対応はもとより質への対応も厳しくなっていることを示唆している。そのような中でも、やはり質を追求し、付加価値の高いサービスの提供に収斂させていく必要がある。SFJのペット同伴搭乗サービスは、SFJの他の種々の取り組みと同様に、付加価値の高いサービスの提供に根差したものであり、国内線での定着を図った上で、海外のニーズがあるようなら、国際線での導入を検討しても良いのかもしれない。ただし、先述したように、狂犬病および高病原性鳥インフルエンザが発生しているという台湾の状況に照らして、人獣共通感染症対策が台湾および日本の双方において適切にとられていることが前提となる。そのような前提を満たしていくためにも、ペット同伴搭乗サービスの導入にあたり、ワンヘルスの考え方は重要なものとなろう。

## 謝辞

本稿は、航空政策研究会2022年度「若手研究者研究助成」（研究課題：ペット同伴搭乗サービスによる国内航空の新規需要創出の可能性と課題、研究代表者：内山真由美）を受けている。本稿の作成に当たって、北九州市港湾空港局空港企画部集客担当課長 尾崎英一様、北九州市港湾空港局空港企画部集客担当係長 塩澤亮介様、株式会社スターフライヤー新規事業推進室長 岸上雄一郎様、ならびに、本調査にご協力いただいたスターフライヤーの社員や旅客の方々など皆様にご支援いただきました。厚くお礼申し上げます。本稿の骨子は、2023年2月15日（水）にアジア成長研究所で開催した研究会で報告した。参加者の皆様からのコメントにお礼を申し上げます。本稿に残る誤りは全て筆者の責任である。

## 参考文献

- 青木人志（2002）『動物の比較法文化－動物保護法の日欧比較－』有斐閣
- 青木人志（2011）「わが国における動物虐待関連犯罪の現状と課題－動物愛護管理法第44条の罪をめぐって－」浅田和茂、石塚伸一、葛野尋之、後藤昭、福島至編『人権の刑事法学－村井敏邦先生古稀記念論文集－』、日本評論社、pp. 147～165
- 青木人志（2016a）『日本の動物法 第2版』東京大学出版会
- 青木人志（2016b）「動物保護法の日英比較－とくに動物虐待の訴追をめぐって－」『法律時報』88（3）、pp. 76～80
- 浅川千尋（2016）「ドイツ憲法から動物保護と法を考える－動物実験規則と人間中心主義克服を中心に－」『法律時報』88（3）、pp. 71～75
- 浅川千尋、有馬めぐむ（2018）『動物保護入門－ドイツとギリシャに学ぶ共生の未来－』世界思想社
- 朝日新聞「日航、純損益937億円赤字 再上場後、四半期最大4～6月期」2020年8月4日
- 伊藤壽啓（2013）「海外の鳥インフルエンザの発生と対策」『鶏病研究会報』49、pp. 1～7
- 井上智、費昌勇「台湾における狂犬病の疫学と我が国における診断能力向上の取り組み」『獣医疫学雑誌』18（1）、pp. 11～17

- 牛房義明 (2012) 「仮想評価法 (CVM) による門司港レトロ景観の評価」『北九州市立大学商経論集』48 (1・2), pp. 35~48
- 内山真由美 (2023) 「ペット同伴搭乗サービスによる国内航空の新規需要創出の可能性と課題」航政研シリーズ (掲載予定)
- 浦川道太郎 (2003) 「ドイツにおける動物保護法の生成と展開一付・ドイツ動物保護法 (翻訳) 一」『早稲田法学』78 (4), pp. 195~236
- 垣内恵美子, 吉田謙太郎 (2002) 「CVMによる「文化資本」の便益評価の試みー世界遺産富山県五箇山合掌造り集落の実例研究一」『文化経済学』3 (2), pp. 63~74
- 株式会社スターフライヤー (2017) 『スターフライヤー漆黒の翼, 感動を乗せて』ダイヤモンド・ビジネス企画
- 亀山嘉大 (2019) 「北九州港ひびきコンテナターミナルに寄港したクルーズ船の船員の観光行動のオプション価値ーCVMによる計測と要因分析から一」『海運経済研究』53, pp. 71~80
- 倉石美都 (2018) 「韓国生活文化における愛玩動物」『都市民俗研究』23, pp. 17~32
- 栗山浩一 (1998) 「CVMによる釧路湿原のレクリエーション価値の評価」『林業経済研究』44 (1), pp. 63~68
- 栗山浩一, 柘植隆宏, 庄子康 (2013) 『初心者のための環境評価入門』勁草書房
- 小林貴之 (2020) 「国内航空運送への一部無過失責任の導入」『関西外国語大学研究論集』112, pp. 193~210.
- 産経新聞「検証コロナ3年3ヵ月 (3) 転換迫られる観光 集客より質」2023年5月4日
- 渋谷寛 (2020) 『ペット訴訟ハンドブックー関係法・判例解説, 交通事故, 動物病院, 飼い主が加害者となる場合, ペットショップ, ペットホテル, トリミングショップ, ペットをめぐる近隣トラブルー』日本加除出版
- 渋谷寛, 杉村亜紀子 (2018) 『ペットの判例ガイドブックー事件・事故, 取引等のトラブルから刑事事件まで一』民事法研究会
- 清水晴生 (2020) 「動物愛護法上の犯罪」『白鷗法学』27 (1), pp. 211~233
- 菅原貴与志 (2014) 「国内航空運送法制化に際しての諸論点」『慶應法学』30, pp. 71~102
- 椿久美子 (2001) 「ドイツのペット法事情」『法律時報』73 (4), pp. 16~23
- 寺田鮎美 (2007) 「文化施設の便益計測と来館者の価値意識に関する実証分析ー大原美術館を例にー」『日本都市計画学会論文集』44 (3), pp. 1~8
- 東京弁護士会公害・環境特別委員会編 (2020) 『動物愛護法入門第2版ー人と動物の共生する社会の実現へー』民事法研究会
- 中村穂佳 (2022) 「【韓国】動物保護法の全部改正」『外国の立法』293 (1), pp. 22~23
- 新美育文 (2001) 「イギリスのペット法事情」『法律時報』73 (4), pp. 5~9
- 日経速報ニュースアーカイブ「スターフライヤー, 新型コロナウイルス感染症の影響による国内線の運航便と減便/運休便について発表」2020年4月23日 17:00
- 新田耕作, 鈴木久雄, 矢部光保 (2000) 「CVMによるレクリエーション価値の経済評価」『農業総合研究 (農林省農業総合研究所)』54 (1), pp. 93~112
- 日本経済新聞「スターフライヤー, 37億円の赤字」2020年8月4日
- 日本経済新聞「スターフライヤー, フライト機内でプラネタリウム」2020年8月29日
- 日本経済新聞「スターフライヤー, 北九州空港で施設探検ツアー」2020年12月1日
- 長谷川貞之 (2001) 「アメリカのペット法事情」『法律時報』73 (4), pp. 10~15
- 林勇貴 (2016) 「仮想評価法を用いた博物館の実証的研究」『日本経済研究』73, pp. 84~110
- 原田國男 (1984) 「第9章動物の保護及び管理に関する法律」伊藤榮樹, 小野慶二, 莊子邦雄編『注釈特別刑法第5巻経済法編II』立花書房, pp. 525~548
- 樋口修 (2019a) 「スウェーデンの新しい動物保護法ー動物保護法 (スウェーデン法令全書2019年第66号) ー (資料)」『レファレンス』817, pp. 79~103



- 樋口修 (2019b) 「スウェーデンのペット飼養規制—犬猫飼養庁令 (スウェーデン農業庁法令全書 2019 年第 28 号) — (資料)」『レファレンス』821, pp. 73~101
- 樋口修 (2021) 「スウェーデンの動物保護法令の概要—動物保護令 (スウェーデン法令全書 2018 年第 1192 号) — (資料)」『レファレンス』850, pp. 25~70
- ペット六法編集委員会編 (2006a) 『ペット六法 第2版 法令編』誠文堂新光社
- ペット六法編集委員会編 (2006b) 『ペット六法 第2版 用語解説・資料編』誠文堂新光社
- 三上正隆 (2018) 「動物虐待関連犯罪の保護法益に関する立法論的考察」『愛知学院大学宗教法制研究所紀要』58, pp. 73~100
- 山崎悠基 (1992) 「動物・ペットの航空運送上の法律問題」『専修法学論集』57, pp. 1~41
- 吉井啓子 (2001) 「フランスのペット法事情」『法律時報』73 (4), pp. 24~28
- 李承吉 (2010) 「仮想市場価値評価法 (CVM) による観光費用推計と潜在需要因子に関する研究」『日本国際観光学会論文集』17, pp. 55~60

## 〈航空会社 URL〉

- Aeromexico. Pets in the cabin (PETC). (<https://aeromexico.com/en-us/travel-information/pets-in-cabin>) Accessed May 1, 2023
- Air Busan 「ペット同伴のお客様」(<https://mjp.airbusan.com/mc/common/service/customer/animal>) Accessed May 1, 2023
- Air Canada 「ペット連れのご旅行について」(<https://www.aircanada.com/jp/ja/aco/home/plan/special-assistance/pets.html#/>) Accessed May 1, 2023
- Air France 「ペット・動物の輸送」(<https://www.airfrance.co.jp/ja/information/passagers/voyager-avec-son-animal-chien-chat>) Accessed May 1, 2023
- Air India. Pets. (<https://www.airindia.in/new-pets.htm>) Accessed May 1, 2023
- Air Premia 「ペットをお連れのお客様」(<https://www.airpremia.com/jp/ja/support/need/pet>) Accessed May 1, 2023
- Air Seoul 「ペットをお連れの客様」(<https://flyairseoul.com/CW/ja/animal.do>) Accessed May 1, 2023
- Air Tahiti Nui 「ペットなどの動物の輸送」(<https://www.airtahitinui.com/jp-ja/petutonadonodong-wu-noshu-song>) Accessed May 1, 2023
- American Airlines. Pets. (<https://www.americanairlines.jp/i18n/travel-info/special-assistance/pets.jsp>) Accessed May 1, 2023
- Asiana Airlines 「ペットをお連れのお客様」(<https://flyasiana.com/C/JP/JA/contents/traveling-with-pets>) Accessed May 1, 2023
- Aurora Airlines 「ペット」(<https://www.flyaurora.ru/jp/passengers/carriage-rules/transportation-animals/>) Accessed May 1, 2023
- Austrian Airlines 「ペットとの旅行」(<https://www.austrian.com/jp/ja/travelling-with-animals>) Accessed May 1, 2023
- Bamboo Airways. Pet travel services. (<https://www.bamboairways.com/vn-en/travel-information/luggage-info/pet-travel-services/>) Accessed May 1, 2023
- China Airlines 「ペット」(<https://www.china-airlines.com/jp/jp/fly/prepare-for-the-fly/baggage/pets>) Accessed May 1, 2023
- Delta Air Lines 「デルタ航空でのペットの輸送について」(<https://ja.delta.com/jp/ja/pet-travel/overview>) Accessed May 1, 2023
- EgyptAir. TRAVELING WITH PETS. (<https://www.egyptair.com/en/fly/special-services/Pages/traveling-with-pets.aspx>) .Accessed May 1, 2023
- EL AL Israel Airlines. Traveling with pets. (<https://www.elal.com/eng/baggage/pets>) Accessed May 1, 2023

- Ethiopian Airlines. Travelling with Pets. (<https://www.ethiopianairlines.com/aa/information/special-needs/travelling-with-pets>) Accessed May 1, 2023
- Etihad Airways 「ペット連れの旅」 (<https://www.etihad.com/ja-jp/fly-etihad/baggage/travelling-with-pets>) Accessed May 1, 2023
- Finnair 「フィンエアー便のペット輸送」 (<https://www.finnair.com/jp-ja/%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%82%A8%E3%82%A2%E3%83%BC%E3%81%A7%E3%81%AE%E3%83%9A%E3%83%83%E3%83%88%E3%81%AE%E5%8F%96%E3%82%8A%E6%89%B1%E3%81%84>) Accessed May 1, 2023
- Fly Gangwon. Passengers with pets. (<https://flygangwon.com/en/contents/information/showCustomerInformation.do?tab=3>) Accessed May 1, 2023
- Hainan Airlines 「携帯小動物出行旅客」 (<https://www.hnair.com/lvxingxinxi/tsg/tyxdw/>) Accessed May 1, 2023
- Hawaiian Airlines 「動物を連れて旅行される場合」 (<https://www.hawaiianairlines.co.jp/our-services/special-assistance/traveling-with-animals>) Accessed May 1, 2023
- Iberia Airlines. Travelling with pets. (<https://www.iberia.com/hu/fly-with-iberia/pets/>) Accessed May 1, 2023
- Jeju Air. Customers in Need of Assistance. (<https://www.jejuair.net/en/linkService/help/main.do>) Accessed May 1, 2023
- Jin Air 「ペット同伴のお客様」 (<https://help.jinair.com/hc/ja/sections/4409095501337-%E3%83%9A%E3%83%83%E3%83%88%E5%90%8C%E4%BC%B4%E3%81%AE%E3%81%8A%E5%AE%A2%E6%A7%98>) Accessed May 1, 2023
- KLM 「ペット連れのご旅行」 (<https://www.klm.co.jp/information/pets/reservation>) Accessed May 1, 2023
- Korean Air 「ペットをお連れのお客様」 (<https://www.koreanair.com/jp/ja/airport/assistance/travel-with-pet/checklist>) Accessed May 1, 2023
- LATAM Airlines. Pets transportation. (<https://www.latamairlines.com/us/en/help-center/faq/pets/transport/airplane-flight>) Accessed May 1, 2023
- LOT Polish Airlines 「ペットと一緒にのフライト」 (<https://www.lot.com/jp/ja/journey/special-services/traveling-with-pets>) Accessed May 1, 2023
- Lufthansa 「ペットを追加の機内持ち込み手荷物として客室で輸送する場合」 (<https://www.lufthansa.com/jp/ja/animals-as-additional-carry-on-baggage>) Accessed May 1, 2023
- MIAT Mongolian Airlines. Special service: pets. (<https://www.miat.com/pagecontent.php?lang=jp&pageId=62>) Accessed May 1, 2023
- Swiss International Air Lines 「ペットをお連れのお客様」 (<https://www.swiss.com/jp/ja/prepare/special-care/animals-travelling>) Accessed May 1, 2023
- Turkish Airlines. Traveling with pets. (<https://www.turkishairlines.com/ja-int/any-questions/traveling-with-pets/>) Accessed May 1, 2023
- T'way Air 「ペットをお連れのお客様」 (<https://www.twair.com/app/serviceInfo/contents/1070?regionCode=JP&langCode=ja-JP>) Accessed May 1, 2023
- United Airlines 「ペットをお連れのお客様」 (<https://www.united.com/ja/jp/fly/travel/traveling-with-pets.html>) Accessed May 1, 2023
- Uzbekistan Airways. Travelling with Pets. (<https://www.uzairways.com/en/travelling-pets>) Accessed May 1, 2023
- Vietjet Air. IN-FLIGHT. (<https://www.vietjetair.com/en/pages/terms-and-conditions-vietjet-1608015385508>) Accessed May 1, 2023
- Vietnam Airlines. BAGGAGE. (<https://www.vietnamairlines.com/jp/en/travel-information/baggage/>) Accessed May 1, 2023
- Westjet. Pets. (<https://www.westjet.com/en-ca/pets>) Accessed May 1, 2023